

令和5年度 南アルプス市立八田小学校 自己評価書

令和6年1月12日 作成

学校長：川口 祐子

記述者：教頭 中山 素

【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』 「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ
小中一貫校八田小中学校の教育は、【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ 2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
 - ふるさとを大切に思う児童生徒
 - 変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒
 - 自律性・豊かな人間性を持ち、たくましく生きていくための健康、体力を持った児童生徒

【学校経営の概要】

学校教育目標

「豊かな心を持ち かしこく たくましい子どもの育成」

【めざす子ども像】

- 〔なかよく〕 思いやりの心を持ち 礼儀正しく行動する子ども
- 〔かしこく〕 自ら学び 友と対話し 深く考える子ども
- 〔たくましく〕 よく食べ よく運動し 命を大切にする子ども

【めざす学校像】

- (1) 仲よく助け合い、笑顔の集う学校
- (2) 学ぶ楽しさにあふれる学校
- (3) 整然とした、美しい学校
- (4) 安全で安心な居場所としての学校
- (5) ふるさと八田を誇れる学校

【めざす教師像】

- 子どもとのふれあいを大切にし、子どもとともに成長する教師
- 自己を高め、創意工夫して実践する教師
- 学ぶ姿勢をもち、互いに磨き合う教師
- 目標に向かって協働し合う教師
- 心身ともに健康で、児童、保護者、地域、同僚から信頼される教師

【特色ある教育活動】

- (1) 小笠原流礼法・立腰教育 心と体のバランスのとれた子ども
- (2) ふるさと教育 文化財課との連携や地域の人材を活用し、ふるさと八田を愛し、ふるさと八田に誇りをもつ子ども
- (3) 川柳 言葉を大切にし、感性を豊かにする子ども
- (4) 学習発表会（清流祭） 音楽を通して心をひとつにし、互いの絆を深めようとする子ども

【本年度の努力点】

- (1) 義務教育9年間を見通した教育課程をもとに、小中一貫教育を推進する。
- (2) 学びの質を高める授業づくりを推進し、学習意欲の向上と確かな学力の育成を図る。
- (3) 豊かな心を育成する道徳教育の充実を図る。
- (4) いじめを許さない集団づくりと不登校児童が生じない環境づくりに努める。
- (5) 命、体力、健康・安全、食育に関する指導の充実を図る。
- (6) 指導と支援にもとづく特別支援教育を推進し、その充実を図る。

I 全体評価

教職員の自己評価 (18名実施)

(1) 自己評価の特徴

① A・B (肯定的評価) の合計が100%の項目について

- 1: 児童生徒一人ひとりが目標を持って学校生活を送れるよう指導を行っている。
- 2: 児童生徒は楽しく学校生活を送っている。
- 4: いじめなどの諸問題に対して、お互いに情報を共有し、組織的に取り組んでいる。
- 6: 学習のアイテムなどを活用して、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に努めている。
- 11: 保護者(家庭)と情報を共有し、指導に取り組んでいる。
- 14: 外部関係機関と連携し、児童生徒の健全育成に努めている。
- 16: 児童生徒の安全が確保されるよう、防災教育・防犯・交通安全などの安全指導に努めている。

A・B (肯定的評価) の合計が80%未満の項目について 「なし」

② D (否定的評価) がついた項目について 「なし」

③ 昨年度との比較 (改善した項目、悪化した項目)

○ 改善した項目

(R4→R5の変化)

- 3: Q-U、アドジャン、学級力アンケートなどを活用して児童生徒理解、人間関係づくりに努めている。
(90.9%→100%)

7: 計画的な家庭学習の手立てをしている。(95.5%→100%)

- 8: 小笠原流礼法や立腰教育を意識した、心と体のバランスのとれた児童生徒の育成に努めている。
(90.9%→100%)

12: 地域の人材や施設を利用するなどの、地域の教育力を生かした教育活動を行っている。
(90.9%→100%)

- 13: 各種たよりやHP等により行事や授業などの情報提供を積極的に公開することを通して、「地域に開かれた学校」となるように努めている。
(95.5%→100%)

15: 情報化社会に対応した児童生徒を育成するため、タブレットやスマートフォン等の利用にかかわるモラル教育、リテラシー教育を行っている
(90.9%→94.4%)

● やや悪化・悪化した項目

- 5: 「八田小中スタンダード」で育成をめざす、「伝え合う力」を伸ばすために、教育活動・教科指導の改善に努めている。(100%→94.4%)

9: 小中一貫で取り組んでいる、「下駄箱の整理」「先言後礼のあいさつ」を自ら行う児童生徒の育成に努めている。(95.5%→94.4%)

10: 小中の児童生徒の交流や職員の交流を積極的に行っている。(95.5%→83.3%)

(2) 3学期～来年度に向けた取組課題

○ 児童の育成に関わる課題

- ・教職員間の協調性の強化や「チーム八田小」としての意識高揚のための手立て・方策
- ・小中一貫としての交流の仕方や教職員の意識の高揚への取組と交流方法の強化

児童アンケート (281名実施)

(1) 児童アンケートの特徴

① A・B (肯定的評価) の合計が80%以上の項目について

18項目(睡眠時間、携帯・スマホに関わる質問項目は除外)中、15項目において、肯定的評価が80%以上となっている。また、そのうち10項目で肯定的評価が90%を超える結果となった。

② A・B (肯定的評価) が低い項目(80%未満)について

(R4→R5の変化)

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか。(78.1%→67.1%)

13:あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか(塾や家庭教師を除く)(62.8%→65.2%)

14:あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く)(69.8%→68.3%)

※ いずれの項目も、昨年度と同じ項目において、低い評価が見られた。

(2) 昨年度との比較

① A・B (肯定的評価) の合計がある程度増加した項目

(R4→R5の変化)

1:あなたは、学校生活が楽しいと思いますか。(94.1%→96%)

2:あなたは、学校生活での時間を守っていますか。(95.5%→97.1%)

3:あなたは、校則などの「きまり」や約束ごとを守っていますか。(94.1%→94.7%)

5:あなたは、下駄箱の整頓を自分から進んでやっていますか。(93.3%→93.6%)

7:あなたは、相手の気持ちを考えて、行動していますか。(94.4%→95.4%)

10:あなたは、困ったことや心配なことを相談できる先生がいますか。(87.2%→88.1%)

13:あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか。(62.8%→65.2%)

② A・B (肯定的評価) の合計がある程度減少した項目

(R4→R5の変化)

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか。(78.1%→67.1%)

6:あなたは、先生や友達の話をしっかり聴いていますか。(96.9%→93.9%)

8:あなたは、給食当番や清掃をしっかりとやっていますか。(97.9%→96.8%)

9:あなたは、困ったことや心配なことを相談できる先生がいますか。(91.7%→91.4%)

11:あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか。(96.5%→94.6%)

12:あなたは、授業中、自分の考えを発表していますか。(82.6%→80.9%)

14:あなたは、家で読書をしていますか。(69.8%→68.3%)

15:あなたは、学校や学年・学級へ提出するものを、期限を守って出せていますか。(91.3%→90.4%)

16:あなたは、規則正しい生活ができていますか。(86.4%→82.1%)

18:あなたは、正しいあいさつを自分から進んでやっていますか。(88.9%→88.6%)

19:あなたは、家の人に学校のことを話していますか。(84.4%→81.9%)

(4) 3学期～来年度に向けた取組課題

① 肯定的評価が80%未満の項目を改善することを課題とする

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか

13:あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか(塾や家庭教師を除く)

14:あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く)

② 携帯、スマホの使い方について、引き続き、保護者とのルールづくりを推奨する。

(82.4%→71.2%)

3. 保護者アンケート (251名実施：兄弟姉妹がいる場合も、生徒数分の回答をお願いした。)

(1) 保護者アンケートの特徴

① A・B (肯定的評価) の合計が90%以上の項目について

14項目(携帯・スマホに関わる質問項目は除外)中、9項目において、肯定的評価が90%以上となっている。

- 1：お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか (94.8%)
- 2：学校はいじめの未然防止や子供たちの間違っただ行動に対して、指導していると思います (93.5%)
- 4：学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか (91.5%)
- 5：学校は、わかりやすい授業を行っていると思いますか (97.6%)
- 6：学校は、お子さんが考えを発表する機会を持っていると思いますか (96.8%)
- 11：学校は、保護者と情報を共有し、児童生徒の指導にあたっていると思いますか (92.7%)
- 12：学校は、各種便りやホームページ等を通して積極的な情報提供を行い、行事や授業を積極的に公開したりすることを通して、「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。 (94%)
- 13：学校は教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか (93.6%)
- 14：学校は、防災・防犯・交通安全などの安全指導に努めていると思いますか。 (95.6%)

② A・B (肯定的評価) の合計が80%未満の項目について

14項目中3項目において、肯定的評価が80%未満となっている。

- 7：お子さんは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか (55.4%)
- 9：お子さんは、ご家庭で整理整頓ができていますか (46.2%)
- 10：学校は、小中一貫校として小学校と中学校が連携した教育活動を行っていると思いますか (79.7%)

(2) 昨年度との比較

② A・B (肯定的評価) の合計が減少した項目 (R4→R5の変化)

- 8：お子さんは、ご家庭であいさつができていますか。 (90.7%→85.7%)
- 10：学校は、小中一貫校として小学校と中学校が連携した教育活動を行っていると思いますか。 (86.3%→79.7%)
- 15-3:ルールを決めている場合、お子さんはルールを守り、正しく使っていますか。 (88.4%→78.5%)

(3) 3学期～来年度に向けた取組課題

- ・家庭学習への取組の強化
- ・携帯やスマートフォン等のルール作りの啓蒙や家庭での約束の徹底
- ・

II まとめ(成果と課題)

「教職員自己評価」「児童アンケート」「保護者アンケート」の結果から、今後、以下の事柄について改善をしていく必要がある。

(1) 学習保障と学力向上のための取組

【成果】

- ICT等を効果的に活用しながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを意識し、授業改善を行ってきているため成果として表れている。
- 全国学力・学習状況調査の結果を全教職員で共有し、「伝える」力を伸ばすためにも「自分の考えをまとめて書く、友達の考えと比較して書く」という活動を授業の中で意識して取り入れていくようになった。

【課題】

- 教師は伝え合う力を伸ばすために教育活動・教科指導の改善に努めてはいるものの、保護者には具体的になかなか伝わっていないところがある。
- 家庭学習の取組については、教師と児童は、昨年度よりもやや改善していると捉えているが、保護者はやや悪化していると捉えている。全体的には依然として低い傾向にある。

【対策】

- ・ 一斉授業では発言(表現)ができない児童も、グループ学習では自らの考えを発表しやすくなるので、引き続きそのような形態を授業に取り入れていく。
- ・ 八田小中学学習スタンダード(学習スキル・学習プロセス・学習モデル・学習ツール・学習チーム・学習ルール)を教師だけでなく、児童にも意識させていくために年度の始めの確認だけでなく随時確認していく。
- ・ 毎月行っている「家庭学習パワーアップ週間」を、中学校の学年生徒会のように児童が自分事としてとらえられるような取組に変換できるか探る。例えば、お手本となる家庭学習ノートの児童の例を児童会が選択する、掲示する等の取組を考える。職員と児童の全校体制で家庭学習の充実を図る。
- ・ 県教委から出されている「学びの甲斐善八か条」を基に、家庭学習の定着を図る。

(2) いじめ・不登校に対する取組

【成果】

- 教職員の日頃からの児童への見取りや年3回実施している「いごちアンケート(いじめアンケート)」をもとに、子ども達の実態把握に努め、「いじめ」等の初期対応を迅速にすることができた。
- いじめ発生への対応については、本人からの聞き取りや事実確認をきちんと行う中で、学年や関係職員とともに組織的な対応ができた。
- 児童会の取り組みの一つに「いじめ0宣言」や「みんながなかよし八田小」といった活動のもと、相手を思いやることやいじめは絶対してはいけないという意識が児童に定着していると感じる。

【課題】

- SNS等を背景とした人間関係のトラブルが増えてきている。携帯・スマホを持つ児童が増加し、家庭でのルールづくりも行われている。しかし、ルールを守って正しく使っているか、に関しては、保護者と子どもとの間で大きな差が見られる。

【対策】

- ・ 「学校いじめ防止基本方針」に則った取組を確実に行うとともに、毎年見直しを行う。
- ・ 引き続き、いじめの認知を積極的に行い、早期発見・早期対応に努めていく。
- ・ いじめの未然防止の取組(授業づくり・集団づくり・居場所づくり・絆づくり)を継続していく。
- ・ 「いじめ対策委員会」を中心として、組織的な対応を行う。

